8　新しい農林水産業の研究をしている施設

①鳥取大学かんそう地研究センター

砂丘地を利用した農業の研究



アリドドームと研究施設

鳥取砂丘の近くにある鳥取大学かんそう地研究センターでは，砂丘を農業に利用する研究を進めてきました。

砂丘地で農業を行う人たちにとって，砂の動きと水やりは大きな問題でした。そこで，「野菜がまったく育たない砂丘地を何とかしてりっぱな畑にしたい」と考えたのが，このセンターの研究者でした。

砂防林の研究をはじめ，センターで改良されたスプリンクラー（自動で水をまく機械）や点てきかんがい（作物の根元に水と養分のしずくを落とす方法）などにより，砂丘地でも，らっきょうやながいも，ぶどう，白ねぎなどがつくられるようになりました。

鳥取大学かんそう地研究センターの人の話

気候の変動や木の切りすぎなどにより，植物が育ちにくい土地になることを「砂ばく化」と言います。今，世界の陸地のうち，約４分の１が砂ばく化のえいきょうを受けています。

日本では，砂ばく化の問題はありませんが，たくさんの砂丘地を農業ができるようにしたよい技術があります。この技術をいかして世界の砂ばく化問題を解決するための研究を重ねています。そして，その技術を世界の人々のくらしや地球の緑を守る運動に役立てています。

②農業試験場

農業試験場では，水田で作られるイネや大豆，麦，野菜について研究をしています。

品種を開発する研究



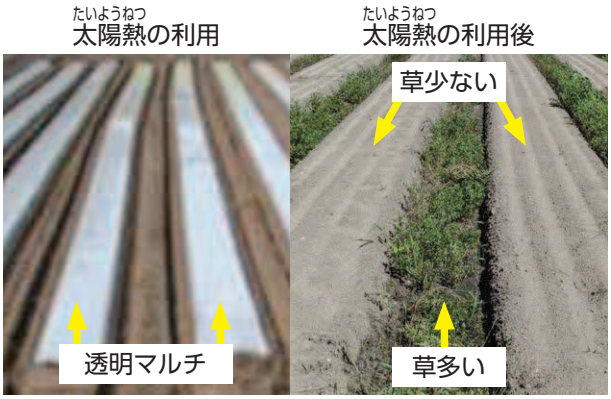
夏に高温になっても，米の品質が低下しにくい，おいしい品種「星空舞」を開発しました。

苗作りの手間をはぶく研究



田植機で苗を植えるのでなく，ドローンで種をまくことで，作業時間が大はばに短くなります。

ざっ草に負けない研究



有機農業に役立つように，太陽の光や熱を利用して作物が育つのをじゃまするざっ草を生えなくする研究をしています。

虫や病気から守る研究



県内の田んぼを観察し，虫や病気が「いつ」「どのくらい」発生するか予想しています。農家に，むだのない防除を行ってもらうため，その結果をお知らせしています。

③園芸試験場

新しい品種づくり

園芸試験場では，野菜・果物・花などの園芸作物について，消費者（買う人）によろこばれ，農家の人にとってつくりやすい，鳥取県ならではの新しい品種をつくり出す研究をしています。

なし
「新甘泉」
あまくて
果汁たっぷり



かき
「輝太郎」
あまくて
大きい



ながいも
「ねばりっこ」
ねばりが強く
短くてほりやすい



イチゴ
「とっておき」
あまくて
おいしい



作業が楽になるなしづくり方法の研究

なしの人工受粉や摘果，せん定は，手間のかかるたいへんな作業です。

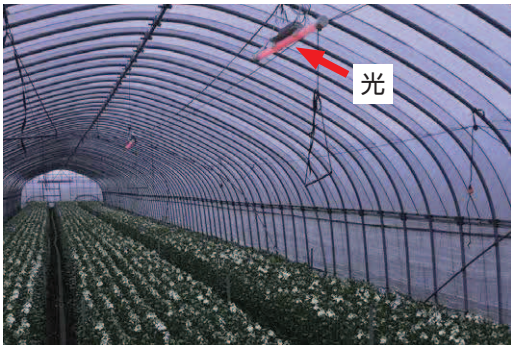
作業がかんたんに早くできるように枝の向きや長さをきれいにそろえる「ジョイント栽培」について研究しています。



作業が楽になるジョイント栽培

花をきれいに咲かせる，特別な光の研究

天気が良くないと花がなかなか咲かないので，特別な光（遠赤色光）を花に当てて，きれいに早く咲かせる研究をしています。



特別な光を花に当てているところ

④畜産試験場

畜産試験場では，約２００頭の牛を飼っており，おいしい牛肉やたくさんの乳を生産するための牛の研究をしています。

おいしい牛肉を生産するための雄牛の研究

おいしい牛肉をたくさん生産するためには，すぐれた雄牛（父牛）が必要です。そのため，畜産試験場では牛の遺伝子や血統をくわしく調べています。琴浦町で生まれた「白鵬８５の３」は，とてもすぐれている雄牛だとわかり，５年に１度の牛の全国大会で牛肉の品質が日本一と評価を受けました。この牛は１５歳（ヒトで約７０歳）でなくなりましたが，その子供たちの中から，さらにすぐれた雄牛が生まれてきています。



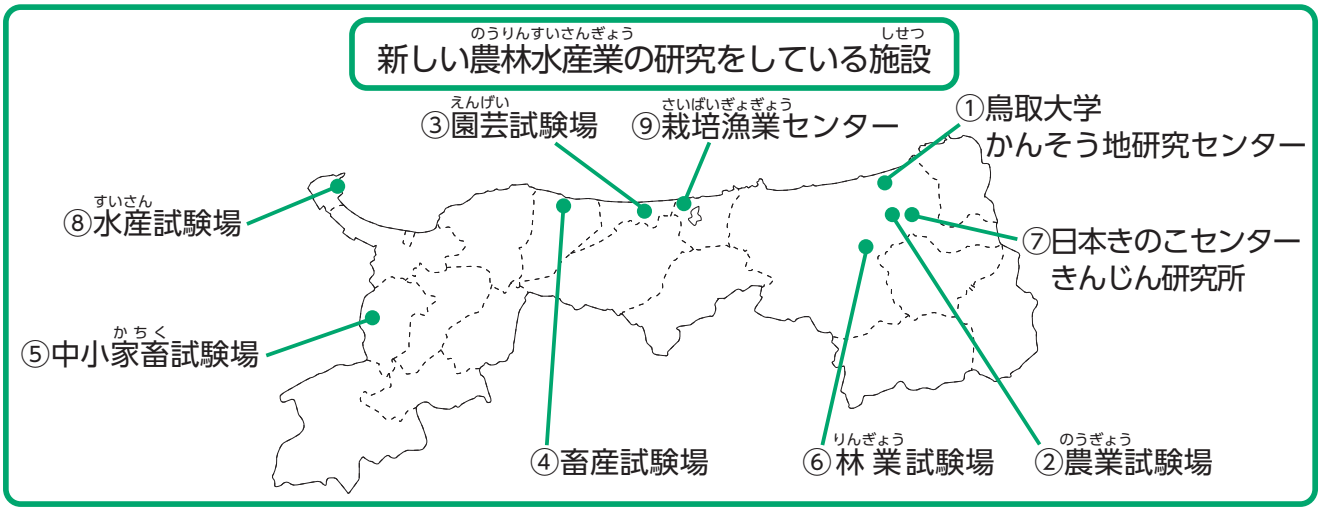
日本一の雄牛「白鵬８５の３」

鳥取県のおいしい牛肉「鳥取和牛オレイン５５」

牛肉のしぼうや赤み肉の成分とおいしさとの関係も研究しており，鳥取県で生産されるおいしい牛肉の中でも，しぼうの質がすぐれたものは「鳥取和牛オレイン５５」として評判になっています。



「鳥取和牛オレイン５５」



⑤中小家畜試験場

鳥取県独自のおいしい豚肉、とり肉をつくる

中小家畜試験場では，鳥取県で開発された新しい品種の豚とにわとりをおいしくて品質の良い肉になるように育てる研究を行っています。また，鳥取県独自のおいしい肉を生産するもととなる豚やにわとりのヒナを農家にとどけています。



豚「大山ルビー」
やわらかく，おいしい肉がとれる



にわとり「鳥取地どりピヨ」
歯ごたえがよく，おいしい肉がとれる

畜産農場からのはい水しょり技術の開発

畜産の農場からは，家畜のふんにょうと家畜を育てている建物の中を洗った時によごれた水（はい水）がでるので，きれいな水になるようにしょりすることが必要です。中小家畜試験場では，農場の家畜の種類（牛，豚）や頭数によって一番良い方法ではい水をしょりする研究やもっときれいな水にする技術を開発しています。

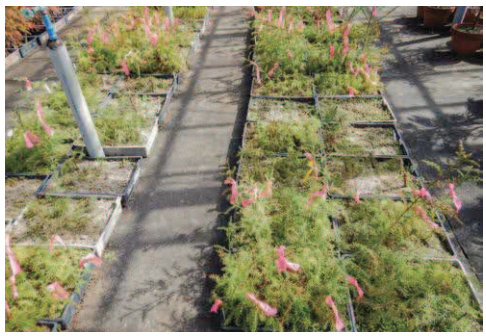


畜産農場からのはい水
左：しょり前の水
中：しょり中の水
右：しょり後の水

⑥林業試験場

健全な森づくりのための技術開発

健全で豊かな森林を守り育てるため，花粉のでないスギを開発したり，成長の早い木（センダン・コウヨウザン）の育て方や，災害が起こりにくい森林の育て方などの研究を行っています。



花粉のでないスギをつくる試験

県産木材の利用技術の研究

鳥取県産の木材がたくさん使われることを目指して，住宅など建物の柱，はり，床，かべなどに利用しやすくなるように，木材の強さなどの特ちょうを調べる研究をしています。



木の屋根の強さを調べる実験



水のしみこみぐあいを調べる実験

⑦日本きのこセンターきんじん研究所

菌類やきのこを専門に研究しており，1万種類ものきのこの菌を保存している全国でもとてもめずらしい施設です。



きのこの栄養を調査する

きのこの研究や開発

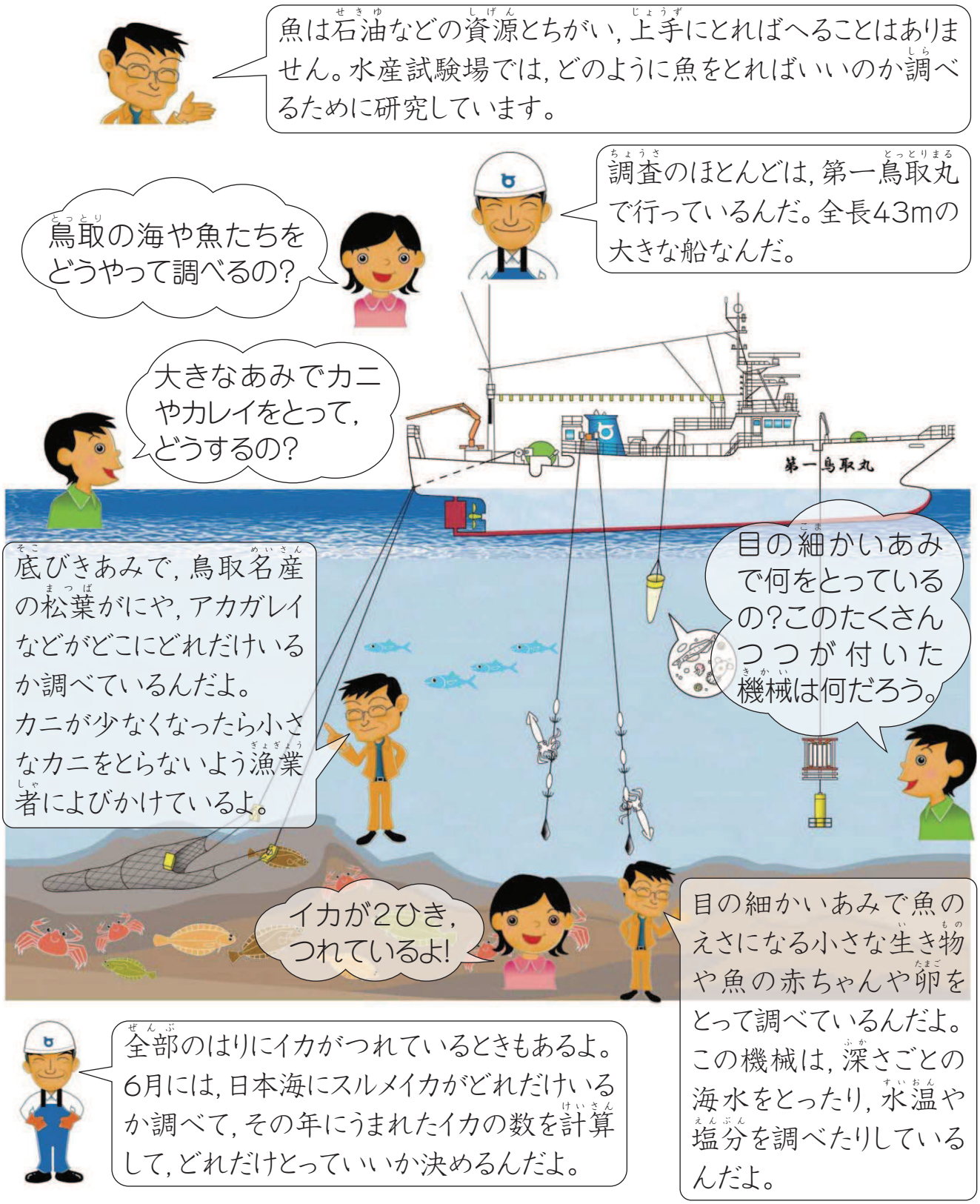
からだによい成分を多くふくんだおいしいきのこや薬になるきのこの研究や新しい技術の開発をしています。



きのこを育てている様子

⑧水産試験場

魚をへらさないで，かしこくとり続けるための研究



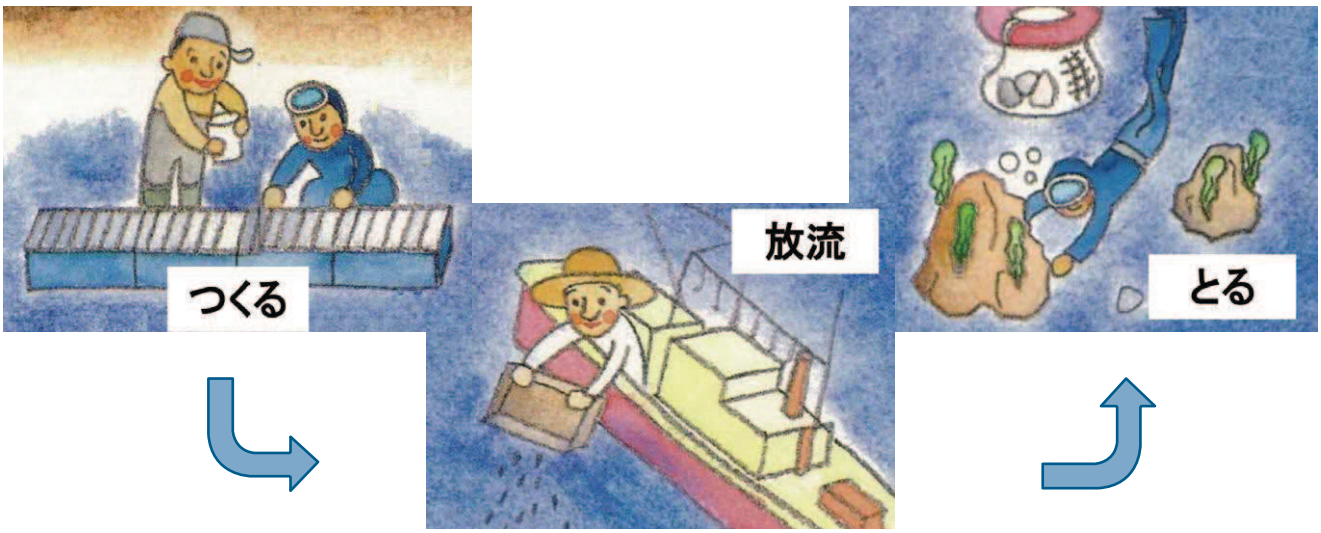
⑨栽培漁業センター



栽培漁業センターでは，魚や貝についての調査や研究をしています。

「さいばい漁業」とは？

魚や貝の赤ちゃんを，自然の中で生きられる大きさになるまで育てます。育てた魚や貝を海などに放流し，大きくなると漁師さんがとります。この漁業のことを「さいばい漁業」と言い，「つくる漁業」ともよばれています。



どんな魚や貝を放流しているの？

鳥取県ではヒラメやキジハタ，アワビやサザエを放流しています。


ヒラメ


キジハタ


アワビ


サザエ